

III

特色ある取組

- 1 授業改善の推進
- 2 検証改善サイクルの確立
- 3 小中連携・接続の推進
- 4 望ましい学習習慣の確立

各市町村教育委員会及び学校において、実効性のある取組をより一層進めることができるよう、「授業改善の推進」「検証改善サイクルの確立」「小中連携・接続の推進」「望ましい学習習慣の確立」について、特色ある取組を紹介します。



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

■ 指導方法の工夫①

- 教科等における言語活動の充実
(奥尻町立青苗小学校)

【取組】

- (1) 日常的な書く活動による「書く習慣」の醸成
- ・ミニ作文を授業以外でも取り入れ、書く習慣の定着を図ることにより、「書くこと」に対する意欲を向上させる指導を工夫した。
 - ・作品をポートフォリオで蓄積し、計画的に振り返らせる場面を設定することにより、児童が自らの成長を実感できる指導を工夫した。
- (2) 主体的に自分の思いや考えを表現する授業づくり
- ・児童が見通しをもって学習を進めることができるよう、単元の指導計画を児童と教師が共有するなど、指導を工夫した。
 - ・ICT等を活用し、友達の表現のよさに触れ、自らの表現に生かす場面を設定した。

【成果と課題】

- 「書く習慣」を身に付けることによる「書くこと」への意欲及び学習したことを記述する表現力が向上した。
- 自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えるための思考力、判断力、表現力等を一層向上させる必要がある。

(檜山管内)

■ 指導方法の工夫②

- 条件に応じた思考・表現を促す授業
(岩見沢市立南小学校)

【取組】

- ・国語科で「情報を整理し、根拠をもって判断を表現する力」の育成に取り組んでおり、思考力・判断力・表現力等を育成する学習では、「文章・資料の内容から考えを導く」、「指定された字数・構成・時間に沿って表現する」、「表現が条件に応じているかチェックする」習慣を徹底している。
- ・条件提示を単なる制約ではなく、「課題解決の文脈を踏まえた思考と表現」を促す重要な要素と捉え、全ての子どもたちの、将来社会で求められる資質・能力の育成に取り組んでいる。



【国語の授業の様子】

【成果と課題】

- 全国学力・学習状況調査の平均正答率が継続して全国平均を上回り、
 - ・情報の整理、筋道をもった表現ができる
 - ・学びに対する自己効力感が高い
 児童の育成が進められている。
- 端末を活用して思考を整理する学びをより一層促進する必要がある。

(空知管内)

組織的な授業改善①

○ 単元全体を見通した授業改善の推進 (えりも町立えりも小学校)

【取組】

- ・自ら学び続ける児童を育成することができるよう、「自己調整の度合い」を設定し、単元全体で目指す姿を明確にして授業改善を行っている。
 - ・全ての教員が、単元全時間の公開を含む授業公開を年に複数

回実施し、各学級における授業改善の成果を学校全体で共有するとともに、取組の方向性について短い期間で検証・改善を推進している。

【成果と課題】

- 全国学力・学習状況調査において、全ての教科で全国及び全道の平均正答率を上回ることとともに、児童質問調査において「分からないことに、自分で学び方を知りたいことがあったときには、自分で学び方を考え、工夫することができる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回るなど、自ら学び続ける児童を育成することができた。
 - 児童生徒が生涯に渡って学び続けることができるよう、実践を地域全体に広げる必要がある。

(自高管内)

■ 組織的な授業改善②

○ 授業改善シートを活用した授業づくり (標津町立川北小学校)

(取組)

- ・学校の教育目標の実現に向けて、児童に資質能力を着実に育成することを目指し、「育成を目指す資質・能力」「を目指す子どもの姿に関わる単元デザインの工夫」及び「授業改善の重点」を明確にするために、学校全体で授業改善シートを活用した授業づくりに取り組んでいる。

【授業改善シートの一部】

【成果と課題】

- 学校全体で授業改善を推進したことにより、令和7年度全国学力・学習状況調査において、各教科とも全国及び全道の平均正答率を上回った。
 - 授業改善シートの「深める」に係る単元デザインの工夫については、各教科の見方・考え方が働くことと関連させる必要がある。

(根室管内)

■ 組織的な授業改善③

○ 根拠を大切にした組織的な授業改善 (音更町立共栄中学校)

【取組】

- 組織的な授業改善の推進に向け、各種調査結果等を活用し、根拠に基づく課題の明確化について、教職員と共有している。
 - 各学校を対象として教育局独自で実施した、子どものウェルビーイングに係るアンケート調査の結果を活用し、子どものよいところを認める取組を進めなど、主体的な学びにつながる授業改善を推進している。
- | 生徒質問 内容 | |
|---|-------|
| 自分には、よいところがあると思いますか
(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合計) | 77.6% |
| 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」合計) | 87.5% |
| 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
(「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」合計) | 65.0% |
| | 全国平均 |
| | 83.3% |
| | 90.4% |
| | 67.5% |

【子どものウェルビーイングに係るアンケート調査】

【成果と課題】

- 学力向上に向けて、教務部、研修部、生徒指導部それぞれが必要な取組を示し、学校全体で授業改善を進める体制を確立することができた。
- 思考力、判断力、表現力等の育成に向け、子どもが日常的にICTを活用できるよう、授業における活用場面の設定を工夫する必要がある。

(十勝管内)

■ 研修会等の充実①

○ 気付きや思考を促す研修会の実施 (釧路管内全小・中学校)

【取組】

- 釧路局主催の研修会において、教師の指導性や、見方・考え方と深い学び、指導と評価の一体化等をテーマに、参加者自身の気付きや思考を促すことにより、教員の授業改善に係る課題を明確にした。
- 5月～7月に実施した国語科、算数・数学科に係る研修会において、教員のICT活用指導能力の向上に向け、指導主事や講師からの情報提供や協議内容を充実させた。

気付き思考を促す参加者を主語とした研修へ	
① 「広い間口」と「深い学び」	明日役立つことを入口に、深い学びへの気付きをもたらす
② Short time & Spiral	回数を精選し点から線へ、連続性ある研修、授業時間との重複を解消
③ 課題解決・探究的な研修	受講者の問い合わせを生かし、研修協力者は課題解決に寄り添う伴走者に
④ 見取りと評価に基づく情報提供	受講者の姿の分析を重視し、必要感に基づく柔軟な研修企画、情報発信
⑤ 釧路管内で授業づくりに活躍している先生方との連携	他管内、市教委、大学、任意研究団体との連携

【参加した教員等と確認した研修の方向性】

【成果と課題】

- 演習・協議を通して、参加者自身が授業改善に係る方向性を明確にしたり、新たに学びたい内容を共有したりすることができた。
- 授業改善に向けた取組の充実を図れるよう、Google Classroomに好事例を掲載するなど、支援の方法を工夫する必要がある。

(釧路管内)

■ 研修会等の充実②

○ 市町村別授業づくりセミナーの実施 (恵庭市)

【取組】

- 7月、授業づくりセミナーを実施し、資質・能力の確実な育成に向けた単元の指導計画の作成について共通理解を図った。
 - セミナーでは、指導事項の系統性や指導のポイントを確認することや、単元の目標と評価規準の整合性を図ることなど、指導計画の改善・充実に向けた協議等を行った。
- 【単元の指導計画作成についての資料】**
-

【成果と課題】

- 資質・能力の確実な育成のための授業づくりについて、多くの教員と共通理解を図ることができた。
- 各市町村教育委員会と連携し、次年度以降も継続した取組を行う必要がある。

(石狩管内)

■ 研修会等の充実③

○ 学力向上に向けた校内体制の確立 (古平町立古平中学校)

【取組】

- 全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえた、授業改善の方向性の決定、取組の進捗の確認など、全教職員の共通認識の形成に向けた校内研修を充実させた。
- 生徒が、どのように考えたのかについて説明する際にICTを効果的に活用した数学の授業を例に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた取組を充実させた。



【授業改善の方向性の共有】

【成果と課題】

- 教職員が安心して、授業改善に関する意見交換や実践の共有を日常的に行うことができるよう、校内体制を確立し、互いに学び合う文化を醸成した。
- 生徒の資質・能力の育成につながる授業改善に向けて、教科等の見方・考え方を十分に働きかせる学習活動の設計を一層進める必要がある。

(後志管内)

■ 研修会等の充実④

○ 授業改善の取組

(士別市教育委員会)

【取組】

- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する教員研修を実施した。
- ・士別市教育推進の重点である「士別まなびフォーカス」に位置付けた「伸ばす・安心・連携」を基盤とした各教科等における指導の重点の明確化及び市指導主事等による学校訪問において重点の共有・浸透を推進した。
- ・中高6年間の円滑な学びの接続に向けて、士別市内4中学校と北海道士別翔雲高等学校とが連携し、授業参観や研究協議、学習状況等の分析を通じて各教科等における授業改善を推進した。

【成果と課題】

- 目指す授業の実現に向け、教員間で授業でのICT活用等を交流するなど、教員自ら協働的に学ぶことができる研修を実施し、授業改善につなげることができた。
- 令和7年度全国学力・学習状況調査において、小・中学校全ての教科で全国平均を上回った。
- 中高連携を推進するため、各教科等の具体的な授業改善に向けた研修を実施する必要がある。

(上川管内)

■ 研修会等の充実⑤

○ 授業改善の取組

(渡島管内全小・中学校)

【取組】

- ・学校が教育局と協働し、複数回の授業公開及び研究協議を行う「個人プロジェクト」及び「学校プロジェクト」を実施することにより、教師や学校が主体的に授業改善を進めている。
- ・「学校プロジェクト」において、各学校の研究担当が担当指導主事と協議し、校内研究の視点から学校全体で授業改善を推進している。
- ・「個人プロジェクト」及び「学校プロジェクト」において、教師や学校が、ポートフォリオを作成し、教育局と今後の取組についてやりとりを行うことにより、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を推進している。

【成果と課題】

- プロジェクトに取り組んだ学校から「学習評価について整理することができた」、「授業改善の視点を整理し校内で共有していきたい」などの声が聞かれ、課題解決に向けた検証改善が進められている。
- ポートフォリオの内容を、教職員間で共有するなど、学校が主体的に授業改善を推進できるよう支援する必要がある。

(渡島管内)

■ 研修会等の充実⑥

- 学校教育指導担当者研修会
(胆振管内市町教育委員会)

【取組】

- ・教育局と市町教育委員会の指導主事等が、同じ方向性で指導助言をすることができるよう、胆振管内の課題を踏まえた指導助言のポイントを共有し、本研修会における成果を各学校に広く周知した。

<研修会の主な内容>

- ・教育活動の充実を図る指導助言に係る説明及び協議
- ・授業改善等に係るリーフレットの作成
- ・義務教育指導監による講演



【管内課題を踏まえた研修会】

【成果と課題】

- 教育局と市町教育委員会の指導主事等が、授業改善に係るリーフレットを作成し、管内の学校に配付したことにより、胆振管内全体の授業改善を推進することができた。
- 指導主事等の連携をより一層深めるため、オンラインを活用し、研修機会を増やす必要がある。

(胆振管内)

■ 研修会等の充実⑦

- 授業改革推進会議の実施
(宗谷管内全市町村)

【取組】

- ・管内の全ての児童生徒が資質・能力を確実に身に付けることができるよう、各市町村の小学校教員、中学校国語担当教員、中学校数学担当教員を構成員とする授業改革推進会議を年3回開催し、指導方法の工夫改善に関する協議等を通じて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改革の取組を、管内全体で推進している。



【授業改革推進会議】

【成果と課題】

- 全ての市町村の教員を構成員として成果普及を図ったことにより、域内の学校が連携した継続的な授業改革の取組を推進できた。
- 本会議で協議された取組内容を積極的に発信し、全ての学校において、授業改革の取組をより一層推進する必要がある。

(宗谷管内)

■ 関係機関との連携①

○ 管内教育研究所と連携した研修 (留萌管内教育研究所)

【取組】

- ・個別最適な学びと協働的な学びの充実を通じた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、留萌管内教育研究所と教育局が連携し、管内の小中学校の教員等を対象として、バーチャルオフィスを活用した研修講座を実施した。
- ・道教委の校内研修サポートガイド等を活用した研修講座では、具体的な手立てを明確にした学習指導案の検討や研究協議の在り方等について説明した。
- ・研究所員が進行役になり、各学校の実践交流・現時点での成果・課題に係る協議を行った。



【バーチャルオフィス】

【成果と課題】

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善につなげるための校内研修の取組について、参加教員の理解が深まった。
- 各学校の授業改善の促進に向けて、参加教員の研修成果の普及や、実際の校内研修・授業における改善の方策について指導助言を行う必要がある。

(留萌管内)

■ 関係機関との連携②

○ 管内教育研究団体と連携した取組 (オホーツク管内教育研究団体及び網走地方教育研修センター)

【取組】

- ・「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた授業改善について、教育局、管内の8教育研究団体及び網走地方教育研修センターが連携し、管内の教員等を対象としたオンラインセミナーを実施した。
- ・管内の学力の状況について、教育局と各教育研究団体が連携して分析し、改善方策を協議した。

2025 7/30 水			
オホーツク 夏の教育セミナー			
Zoomを活用した遠隔研修			
※初回研修費無料(学情調査研修や研修時間)に位置づけることを可能です。			
主催：北海道教育厅オホーツク教育局 共催：網走地方教育研修センター、管内教育研究団体連絡協議会			
「思考力、判断力、表現力等の育成」に向けた授業改善 ～自分の考えを「具体的に書くこと」を取り入れた活動等の充実を通して～			
当日の流れ 12:30～受付 13:00～開会			
13:10～	○網走地方教育研修センター研究員及び教育局職員による説明		
	各教育研究団体の発表は、会員が各教科等における「具体的な実践」について、30分間発表します。それぞれの時間から1団体を選び、参加します。		
13:50～	発表① オホーツク管内特別活動研究会	発表② オホーツク管内算数数学教育研究会	発表③ オホーツク管内学校体育研究会
14:30～	発表④ オホーツク管内学校づくり研究会	発表⑤ オホーツク理科教育研究会	発表⑥ 網走国語教育研究会
15:10～	発表⑦ 網走地区社会科教育研究会	発表⑧ オホーツク地区生活科・総合的な学習教育連盟	
15:40～	○全体協議・まとめ・閉会		

【教育研究団体と連携したセミナーの実施】

【成果と課題】

- 連携を図ることにより、管内の各教育研究団体の授業改善の方向性をそろえることができた。
- オンラインセミナー実施後、参加した初任段階教員が研究団体に入会するなど、教員の継続的な学びの姿に結び付いた。
- 実施内容のより一層の充実に向け、各教育研究団体と協議を重ねる必要がある。

(オホーツク管内)

2 検証改善サイクルの確立

■ 検証改善サイクルの確立①

○ 検証改善サイクルの充実に向けた取組 (土別市教育委員会)

【取組②】

- ・土別市内の教職員を対象に、上川教育局との共催による「エビデンスに基づく授業改革研修会」を開催し、各種調査等で明らかとなった課題を共有するとともに、改善に向けた取組等について検討・共有した。
 - ・全国学力・学習状況調査の結果で明らかとなった家庭学習の取組の充実を図るため、各学校における家庭学習奨励の取組を推進し、ショートスパンで検証改善を進めた。
 - ・AIドリルの導入を見据え、1人1台端末を効果的に活用した家庭学習の取組について実践検証を推進した。

【成果と課題】

- 令和7年度全国学力・学習状況調査において、「家庭で1時間以上勉強している」と回答した児童生徒の割合が前年度を上回った。
 - 士別市全体でAIドリルの活用を開始したことにより、端末を活用した家庭学習の取組が進み、家庭学習が習慣化された。
 - 今後も、学力を支える「学ぶ楽しさ」や「自己肯定感」を全教育活動を通じて育む必要がある。

(上川管内)

■ 検証改善サイクルの確立②

○ 資質・能力でつなぐ単元配列表の作成 (別海町立別海中央小学校)

【取組②】

- ・各教科等と総合的な学習の時間の間で、育成された児童の資質・能力が互いに活用・発揮される教育課程の編成を目指し、学校全体で育成を目指す資質・能力の視点から、各単元のつながりを明確にした単元配列表を作成するとともに、全教職員による複数回の検証改善に取り組んでいる。

【单元配列表の一部】

【成果と課題】

- 検証改善サイクルの質的向上が図られたことにより、令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語は全道を上回り、理科は全国及び全道を上回った。
 - 資質・能力でつなぐカリキュラム・マネジメントについて、全教職員で理解を深める必要がある。

(根室管内)

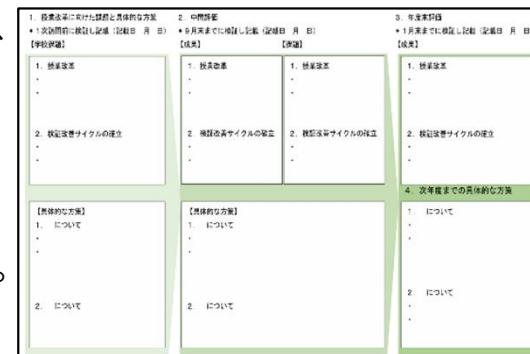
2 検証改善サイクルの確立

■ 検証改善サイクルの確立③

○ 検証改善サイクルシートの活用 (宗谷管内全小・中学校)

【取組】

- 各学校において、検証改善サイクルに基づいた授業改革を推進できるよう、「検証改善サイクルシート」を活用している。
- 本シートを用いて、学力向上に向けた取組の成果と課題を明らかにし、改善に向けた具体的な方策を明確にすることにより、検証改善サイクルの更なる充実につなげている。



【成果と課題】

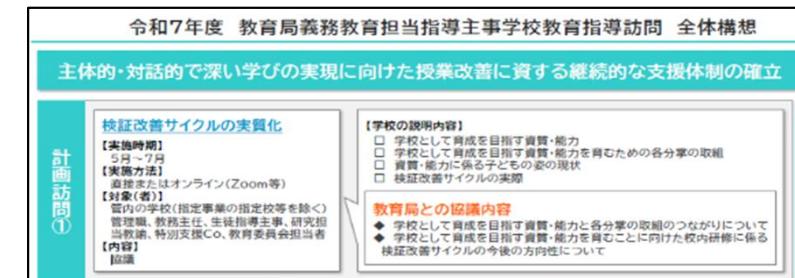
- 本シートを活用することにより、管内全ての学校において、自校の実態を踏まえた検証改善サイクルが確立されるとともに、学力向上の取組を推進することができた。
- 校内で共通理解を図るなど、学校全体の組織的な取組につなげる必要がある。

■ 検証改善サイクルの確立④

○ 繼続的な支援体制の確立 (釧路管内市町村教育委員会)

【取組】

- 釧路管内指導主事研修会において、検証改善サイクルに係る指導助言の観点について協議し、学校教育指導における方向性を共有した。
- 学校教育指導において、育成を目指す資質・能力と各分掌の取組のつながりに焦点を当て、教育課程の改善に向けた指導助言の方向性を明確にした。



【成果と課題】

- 指導助言の方向性を市町村教育委員会と共有したことにより、共通理解の下、各学校の教育活動への支援を行うことができた。
- 各学校の検証改善サイクルの確立に向けた自走を促すことができるよう、当該校の教育活動等の改善状況を市町村教育委員会と共有した上で、具体的な指導助言を行うなど、支援体制の確立に向けた取組を行う必要がある。

2 検証改善サイクルの確立

■ 検証改善サイクルの確立⑤

○ 調査問題の教材としての活用

(岩見沢市立南小学校)

【取組】

- ・全国学力・学習状況調査の問題を、子どもたちが将来、社会で求められる資質・能力を「問題」という形式に落とし込んでいるものと捉え、日常的に問題に触ることは、慣れではなく、社会で求められる力をどう発揮するかの練習であり、学校は、資質・能力の育成だけではなく、資質・能力を発揮できるところまで橋渡しをするという認識の下、調査問題を教材として活用している。
 - ・調査問題は、年複数回、授業・朝学習等で活用し、解答時間制限を設定したり、正答率や部分点を踏まえた解答類型を児童と共有したりするなど、子どもたちがどこまでできて、どこが足りなかつたのかを振り返り、将来、必要となる資質・能力を見据えて学ぶことを促している。

【成果と課題】

- 児童が調査問題に向き合うことにより、学習を「テストのため」ではなく、「将来につなげるため」と認識し、学びへのモチベーションが高まった。
 - 調査問題を問い合わせの構造や条件について分析し、授業改善につなげる必要がある。

検証改善サイクルの確立⑥

- 管内における好事例の把握及び普及啓発
(恵庭市立柏小学校、石狩市立花川北中学校
北海道千歳高等学校)

【取組】

- ・ E B E 協議会において、検証改善サイクルに基づく組織的な授業改善や学力向上等に向けた取組についての優れた実践発表を通して、管内で共通理解を深めた。
 - ・ 実践発表後の協議において、各校の具体的な検証改善サイクルについて意見交換し、理解を深めた。

調査問題一覧表【小学校国語】									
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習効果得点化の指標					評価の傾向	問題形式
			知識・記憶	理解・発展	操作・実験	表現・表現	問題解決		
1	【「読む」の練習】における文章の読み方について、読み方に対する考え方を理解するにあたって、そのして、読み方に対する考え方を理解する。	読み方や読み方に向けて、何が読み方の 小さな特徴をもつ。また、読み方に対する考え方を理解することができる。	○	○	○	○	○	○	式
2	【読むし合いの実践】の書きあそびの時に もじこえて書かれたものを読む。	読み方や読み方に向けて、何が読み方の 小さな特徴をもつ。また、読み方に対する考え方を理解することができる。	○	○	○	○	○	○	式
3	【インビュート練習】の「音」で「音がさ」か「音がす」かの区別を理解して書かれたものを読みます。	読み方や読み方に向けて、何が読み方の 小さな特徴をもつ。また、読み方に対する考え方を理解することができる。	○	○	○	○	○	○	式
4	【インビュート練習】の「音」で「音がさ」か「音がす」かの区別を読みます。	読み方や読み方に向けて、何が読み方の 小さな特徴をもつ。また、読み方に対する考え方を理解することができる。	○	○	○	○	○	○	式

【調査問題と連動した教育課程の改善】

（成果と課題）

- 小・中学校及び高等学校の校種を問わず、検証改善サイクルの具体について共通理解を図ることができた。
 - 12年間を見据えた授業改善に向けた取組が進むよう、より多くの高等学校の参加を呼び掛ける必要がある。

(空知管内)

(石狩管内)

3 小中連携・接続の推進

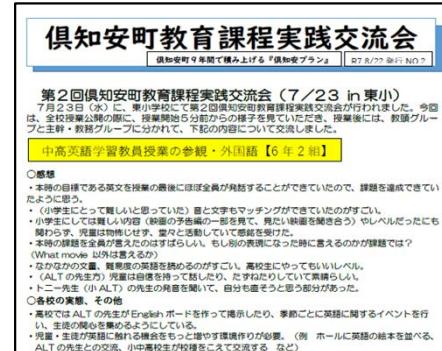
■ 小中連携・接続の推進①

○ 小中高が連携した取組の充実

(俱知安町)

【取組】

- ・町内全ての小学校、中学校及び高等学校の管理職が、学校改善に向けて協議する合同会議を月に1回実施した。
 - ・町内全ての小学校、中学校及び高等学校の教務主任等が、授業参観や協議を通して、各校の課題解決を図る教育課程実践交流会を月に1回実施し、町内の教職員と内容を共有するなど、積極的に普及している。



【交流会の内容の共有】

【成果と課題】

- 授業改善に向けた取組や生徒指導上の課題等についての協議等を通じて、小中高を通じた系統的な支援を実現させるとともに、教職員の指導力向上及び校種間で教育観を共有することができた。
 - 町全体でカリキュラム・マネジメントを推進するため、校種間の連携を一層強化する必要がある。

(後志管内)

■ 小中連携・接続の推進②

○ 小中連携の取組

(七飯町立七飯中学校区)

【取組】

- ・中学校区において、4つの「つなぐ」をキーワードに小中連携グランドデザインを作成し、9年間を見通した子どもの姿（目指す15歳の姿）を共有することにより、学校段階間の連携を進めている。
 - ・9年間を見通した情報活用能力の体系表を作成することにより、子どもたちの情報活用能力を育成している。



【目指す15歳の姿を共有するグランドデザイン】

【成果と課題】

- 小学校と中学校が目指す子ども像や教育課程等を共有することにより、総合的な学習の時間等において、異校種間での交流・連携が進められている。
 - 日常の学習指導等において一貫性に配慮した取組を行うことができるよう支援する必要がある。

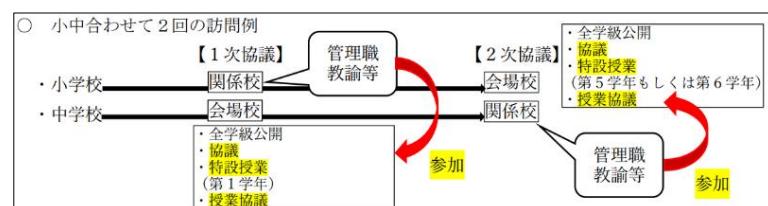
(渡島管内)

■ 小中連携・接続の推進③

○ 学校訪問（小中連携型）の実施 (オホーツク管内全小・中学校)

【取組】

- 新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向け、小中連携による授業改善や教育課程の接続等に係る取組の推進を図ることを目的として、中学校区合同で学校教育指導訪問を実施している。
- 特設授業は、小中接続の観点から小学校第5学年、第6学年、中学校第1学年のいずれかに限定し、中学校区の教員が特設授業参観及び協議に参加した。



【小中連携型の学校訪問例】

【成果と課題】

- 小・中学校が一体となった授業改善の取組や、教育課程の接続を視点とした協議の実施により、小中連携の取組が促進された。
- ICTの利活用に向け、小・中学校の系統性を意識した活用方法を検討することができた。
- 実施対象を「中学校区に小学校が1校の地域」と限定していることから、次年度以降は全ての学校を対象とするため工夫する必要がある。

(オホーツク管内)

■ 望ましい学習習慣の確立①

○ オンデマンド胆振研修会 (小学校の児童及び保護者)

【取組】

- 子どもの望ましい学習習慣・生活習慣に関することや家庭教育の支援に関することについて、社会教育指導班が学校等からの要望を受け、保護者及び児童生徒等を対象とした胆振教育局独自の研修会を実施している。

<研修会の主な内容>

- 電子メディアの適切な利活用
- 自己調整力
- 読書習慣
- 家庭教育支援



【局独自事業を活用した親子教室】

【成果と課題】

- 昨年度実施した本研修会の事後アンケートでは、参加した児童及び保護者のおよそ90%から肯定的な回答を得るなど、児童と保護者の電子メディアの利活用に係る理解を深めることができた。
- オンデマンド胆振研修について、学校教育指導訪問等の機会を活用し、広く周知する必要がある。

(胆振管内)

4 望ましい学習習慣の確立

■ 望ましい学習習慣の確立②

- ICTの活用による学習習慣の確立
(厚沢部町立厚沢部中学校)

【取組】

- (1)手帳アプリの活用による学習習慣の確立
 - ・連絡事項や教科指導に必要な情報提供等、手帳アプリを活用した学習の記録化により、主体的な学習習慣の確立に向けた指導を工夫した。
 - ・生徒の学習記録等を複数の教員で閲覧し、学習習慣や生活習慣の向上に向けた組織的な指導を工夫した。
- (2)クラウドサービスを活用した学びの環境づくり
 - ・授業と家庭学習を往還することで主体的な学びを推進する「反転学習」を実施した。
 - ・授業の振り返りや授業アーカイブの活用により、家庭学習を充実させた。

【成果と課題】

- 生徒の学習記録や学習ログ等を活用した組織的な指導により、生徒の家庭学習に対する意識が向上した。
- ICTの活用と対面による指導の両立を図るなど、生徒が主体的に学習に取り組める学びの環境づくりを一層推進する必要がある。

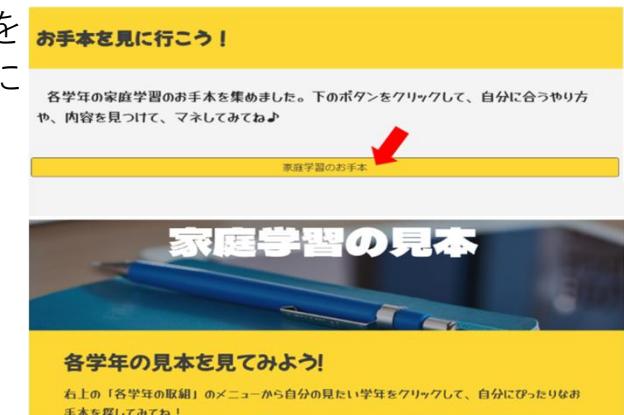
(檜山管内)

■ 望ましい学習習慣の確立③

- 学習アプリの活用による家庭学習
(大樹町立大樹小学校)

【取組】

- ・子どもが計画的に学習を進めることができるように、家庭と連携した家庭学習の取組を推進している。
- ・子どもがいつでも参考にすることができるよう、家庭学習の計画や振り返り、「家庭学習ノート」などの取組例をWebサイトに掲載している。



【家庭学習の取組例を掲載したWebサイト】

【成果と課題】

- 家庭学習でICTを活用することにより、子どもが自分の理解度や学習進度に応じた内容を自己選択する取組を進めることができた。
- 子ども一人一人に応じた家庭学習の充実に向け、家庭との連携を一層進める必要がある。

(十勝管内)

4 望ましい学習習慣の確立

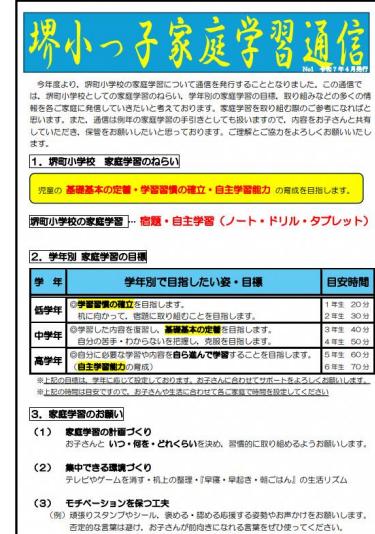
■ 望ましい学習習慣の確立④

○ 家庭・地域へ向けた啓発活動

(浦河町立堺町小学校)

【取組】

- 「家庭学習通信」を作成し、児童に対して家庭学習の取り組み方等を支援するとともに保護者に対して家庭での支援方法や学校の取組を周知し、家庭と協働して学習習慣の確立を図っている。
- 中学校の定期テスト期間を活用し、同一中学校区の小・中学校で共通した「家庭学習週間」を設定するとともに、家庭に対して重点的に支援を働きかけている。



【家庭学習通信】

【成果と課題】

- 全国学力・学習状況調査の児童質問調査において「1日当たり1時間以上勉強する」と回答した児童の割合が令和5年度から令和7年度の3年間で20%上昇するなど、児童の学習習慣の確立を推進することができた。
- 家庭学習の内容を一層充実させることができるように、授業改善と連動した取組を推進する必要がある。

(日高管内)

■ 望ましい学習習慣の確立⑤

○ 学習習慣の確立に向けた取組

(留萌市立港南中学校)

【取組】

- 生徒に「主体的に学ぶ力」を身に付けさせるため、教育活動全体を通して望ましい学習習慣の確立に向けた取組を実施した。
- 学級活動において、家庭学習の目的や意義の理解を図り、目標の設定や振り返りの機会を設けた。また、生徒会活動を通じて家庭学習の取組を交流したほか、放課後に教育相談を実施した。
- 「家庭学習強化週間」において、家庭学習の目的を共有し、学習状況を把握した上で、実態に応じた学び方の指導や振り返りシートを活用した励ましを行った。
- SNS等で保護者へ取組の発信と協力依頼を行った。

【成果と課題】

- 教員間で積極的に交流し、指導・支援の改善を図ったことにより、生徒の家庭学習への意欲が高まり、家庭学習30分未満の生徒が減少した。
- 教科間で連携して実態に応じた指導・支援を継続しつつ、学習意欲の向上や基礎学力の定着に向け、授業改善と連動した家庭学習の取組を一層充実させる必要がある。

(留萌管内)